

Q. 設備投資(2024年度上期実績・通期計画)について。

- ・ 2024年度上期の投資実績は32億円。国内で約15億円、海外で約17億円。  
国内では、合理化に資する設備投資やDX関連投資を行ったほか、海外では、タイやインドでの合理化や増産に対応した投資を中心に実施。
- ・ 2024年度通期の投資計画は75億円。国内で約35億円、海外で約40億円。  
国内では、引き続き合理化に資する設備投資やDX関連投資を行うとともに、海外では、成長地域であるインドやタイでの増産に対応した投資を計画。

Q. 各セグメントの下期及び通期見込について。

【機能品セグメント】

- ・ タイで中国向けワイパーが増加していることから、下期も拡販を継続。
- ・ 韓国でEV向け製品である放熱ギャップフィラーが量産化されたことで、売上・利益共に伸長予定。
- ・ 検査工程の改善などの合理化を進めることで、各自動車メーカーの生産減少に対応する予定。

【防振セグメント】

- ・ インドにてダンパープーリの受注増、中国国内メーカー向けHEVが増加したが、この傾向が継続。
- ・ フコクグループ内での最適地生産化・歩留まり向上をこれまで以上に進める予定。

【ライフサイエンスセグメント】

- ・ インバウンド需要の好調さが下期も継続。
- ・ 再生医療用培地の拡販継続。
- ・ 合理化による適正な人員配置化。

【金属加工セグメント】

- ・ 上期同様、非採算部品の縮小を実施。
- ・ 価格の適正化による値上も実施予定。

【ホースセグメント】

- ・ 東南アジアでのトラック市場需要冷え込みがみられるため、内部努力（工程自動化等）を推進。

Q. EV用の部材（バッテリーホールドシートなど）の状況について。

- ・ トヨタ社に採用されているバッテリーホールドシートは、他社での採用も含め検討を進めている。
- ・ 放熱ギャップファイラーは今年から韓国のカーメーカー向けに量産が始まっており、こちらも同様に他のカーメーカーへの展開を進めている。

Q. 来期（2026年3月期）の合理化の効果について。

- ・ 今年度行っている合理化投資の効果は、下期から来期にかけて出て来る見込。
- ・ 抜本的なモゾづくり改革を進めており、例えば、自動化装置等により効果を出していく。
- ・ 人件費上昇並びにナフサを始めとした市況が高止まりする状況下、歩留まり改善等を通じて無駄をなくしていく。

Q. 変動対応の詳細と来期以降の効果について。

- ・ 仕入先からの労務費および原材料高騰等を、お客様と一緒に決めたルールやカーメーカーのルールに基づき、変動対応分として申請している。

Q. 中国での利益成長要因について。

- ・ 日系カーメーカーの生産が減少する中、中国カーメーカーへの拡販アプローチを進めることで、ワイパー・ダンパー等の販売が増加しているため。

Q. 中国の自動車メーカーへの拡販が可能である理由について。

- ・ 開発段階から中国のメーカーと共に開発を進め、当社から技術的なソリューションをトータルで提供できることが評価頂いている要因、と理解している。

Q. ライフサイエンス分野について。拡販策と新中計時の投資計画概要。また売上構成比（現状連結売上高の1%程度）向上策について。

- ・ 細胞培養バッグ・培地・化粧品原料に注力しており、特に細胞培養用の培地は当社の配合技術を応用し自社で研究開発を進めており、現在行っているリンパ球以外の培地への拡販も考えている。
- ・ 投資計画については、研究開発及び増産に対する投資を少しずつ進めていく。
- ・ 2030年に約30億円、2050年には約100億円と売上拡大を進めて行く中、連結売上高の10%以上を目標としており、その目標に沿って開発研究等を進めていく。

Q. 新中期経営計画最終年度である2027年3月期売上高1,200億円、営業利益96億円、利益率8%に対する利益構成等を要因別に教えてほしい。

- ・ 中計の基本戦略スキームである「既存事業の強化」「成長事業・新事業の拡大」に取り組むことで、操業度を大幅に上げていくと考えている。

以上